津和野町内遺跡発掘調查報告書3

2008年3月 島根県津和野町教育委員会

津和野町内遺跡発掘調查報告書3

2008年3月 島根県津和野町教育委員会

序 文

山陰の小京都として知られる津和野町には、恵まれた自然環境の中で先人たちが生活していた証である貴重な文化財が数多く残されています。今回、町内での開発事業に先立って試掘・確認調査をおこないました。調査の結果、縄文時代から近代にかけての遺跡が存在していることが明らかとなり、町内の歴史の一端が次第に明らかになってきました。

本書が埋蔵文化財の理解・普及に寄与し、学校教育・社会教育・学術研究の一資料として活用していただければ幸いです。最後になりましたが、発掘調査に際して多大なご理解・ご協力をいただきました関係各位に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成20年3月1日

津和野町教育委員会 教育長 斎藤 誠

例 言

- 1. 本書は津和野町教育委員会が文化庁、島根県の補助を受けて平成9~11年度(1997~1999)に実施 した、津和野町内遺跡の試掘確認調査・踏査報告書である。
- 2. 調査体制は、下記のとおりである。

調查指導 島根県教育委員会文化財課

調查主体 津和野町教育委員会

事務局 津和野町教育委員会 教育長 斎藤 数弘 (平成19年12月5日まで)

斎藤 誠 (平成19年12月6日から)

教育次長 広石 修

主幹 米本 潔

文化財係長 中井 将胤

調査員 文化財係主任主事 宮田 健一

調査補助員 嘱託 永田 茂美

嘱託 椋木 牧子

嘱託 麻野 遥

- 3. 発掘調査に際しては、土地所有者をはじめとして、地元の方々に始終多大な協力をいただいたことに、ここに感謝の意を表したい。
- 4. 今回の調査において、現場あるいは編集に利用した地図は、都市計画図の1/25,000、津和野町管内図の1/25,000等を使用した。また調査地点名は全て大字や小字をもって称することとし、末尾に地区を附して統一している。
- 5. 調査に伴う記録類および出土遺物は、津和野町教育委員会で保存している。
- 6. 本書は中井が編集に当たり、宮田・永田・椋木・麻野の協力を得た。
- 7. 平成17年9月25日、旧津和野町と旧日原町が合併し新津和野町となった。本文中の「町内」はすべて「旧津和野町」のことである。

目 次

第1	章	はじめに	-
第 2	章	平成 9 年度 (1997) 調査概要	Ę
	第1節	丸山地区	5
	第2節	祇園町地区	7
	第3節	後田土井ノ内地区	ç
	第4節	大蔭地区	11
	第5節	陶晴賢本陣跡(大蔭地区・踏査)	13
	第6節	中座西中組地区	15
	第7節	牧ヶ野地区	17
Í	第8節	畦田地区	21
第3	章	平成10年度(1998)調査概要	23
3	第1節	山入地区	23
第4	章	平成11年度(1999)調査概要	25
Ĵ	第1節	横瀬地区(踏査)	25
Ĵ	第2節	大蔭地区	27
ĵ	第3節	千原地区	29
1	第4節	野広地区	21

図・挿図 目次

第1図	位置図	2
第 2 図	調査地位置図 ······	3-4
第3図	丸山地区試掘調査配置図	5
第4図	祇園町地区試掘調査配置図	7
第5図	後田土井ノ内地区試掘調査配置図	9
第6図	大蔭地区試掘調査配置図	11
第7図	陶晴賢本陣跡踏査範囲図	13
第8図	中座西中組地区試掘調査配置図	15
第 9 図	牧ヶ野地区試掘調査配置図	18
第10図	畦田地区試掘調査配置図	21
第11図	山入地区試掘調査配置図	23
第12図	横瀬地区踏査範囲図	26
第13図	大蔭地区試掘調査配置図	27
第14図	千原地区試掘調査配置図	29
第15図	野広地区試掘調査配置図	31
第1表	試掘調査・踏査一覧	1

図版 目次

- 図版1 1. TP6・7付近遠景(東より)
 - -2. TP7弥生時代の柱穴(東より)
 - 3. 出土遺物
- 図版2 1.調査区近景(西より)
 - 2. TP1 発掘状況
 - 3. 出土遺物
- 図版3 1.調査区遠景(東より)
 - 2. 完掘状況(南東より)
 - 3. 完掘状況(北西より)
- 図版4 1.調査区遠景(北西より)
 - 2. TP27縄文時代の土坑(南より)
 - 3. 出土遺物
- 図版 5 1. 調査地北西部遠景
 - 2. 竪堀(中央の窪んだ部分)
 - 3. 竪堀正面の石積み
- 図版 6 1.調査区遠景(南より)
 - 2. 完掘状況(南より)
- 図版7 1.調査区遠景(北西より)
 - 2. TP5 完掘状況(南東より)
 - 3. TP6戦国期の石組遺構(北東より)
- 図版8 1. TP18鎌倉期の柱穴群(北東より)
 - 2. TP36石積の堤防断面(東より)
 - 3. 出土遺物
- 図版9 1. TP1付近遠景(北東より)
 - 2. 完掘状況
 - 3. 出土遺物
- 図版10 1.調査区遠景(西から)
 - 2. 完掘状況
 - 3. 出土遺物

- 図版11 1.調査区遠景(南より)
 - 2. 調査風景(西より)
- 図版12 1.調査区近景(南東より)
 - 2. TP28完掘状況
 - 3. 出土遺物
- 図版13 1.調査区付近遠景(北より)
 - 2. TP1 完掘状況
 - 3. 出土遺物
- 図版14 1.調査区付近遠景(北東より)
 - 2. TP5完掘状況
 - 3. 出土遺物

第1章 はじめに

1.調査目的

この事業は、町内で頻発する民間事業・公共事業に対応するため、発掘調査または踏査を実施することによって、町内に所在する埋蔵文化財を適切に保護し、将来に向けて保存を図ることを目的とする。

2. 調査の経過

津和野町教育委員会では、開発事業に際して文化財の有無照合があった場合、試掘調査をおこない、 埋蔵文化財の遺存状況の確認に努めている。

3. 調査地点

実施した試掘調査・踏査は第1表の通りである。また調査場所については、第2図に記した。なお、 第2図に記されている番号は、第1表の番号と一致する。

番号	年度	年月日	遺跡名	・地区名	,	
1	9 (1997)	4月~	丸山地区	(試掘)	8ケ	津和野町森村
2	9 (1997)	5月	祇園町地区	(試掘)	2ケ	津和野町後田
3	9 (1997)	7月~	後田土井ノ内地区	(試掘)	1ケ	津和野町後田
4	9 (1997)	11月~	大蔭地区	(試掘)	9ケ	津和野町鷲原
5	9 (1997)	11月	陶晴賢本陣跡(大	蔭地区・	踏査)	津和野町鷲原
6	9 (1997)	11月	中座西中組地区	(試掘)	1ケ	津和野町中座
7	9 (1997)	11月~	牧ヶ野地区	(試掘)	36ケ	津和野町高峰
8	9 (1997)	2月	畦田地区	(試掘)	3ケ	津和野町森村
9	10(1998)	12月	山入地区	(試掘)	3ケ	津和野町田二穂
10	11 (1999)	4月	横瀬地区	(踏査)		津和野町部栄
11	11 (1999)	12月	大蔭地区	(試掘)	5ケ	津和野町鷲原
12	11 (1999)	3月	千原地区	(試掘)	2ケ	津和野町寺田
13	11 (1999)	3月	野広地区	(試掘)	15ケ	津和野町直地

第1表 試掘調査・踏査一覧

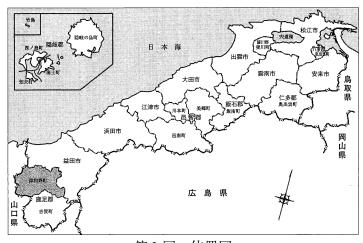
4. 位置と歴史的環境

津和野町は、島根県西部に位置し(第1図)し、平成17年9月25日に合併が行われたため、現在では北・東側が益田市、南側が吉賀町、西側が山口県に接した位置に存在する。

そして東西27km・南北19kmを測り、総面積が307.09km²となる。

また、総面積の約8割以上が山林で、高津川や津和野川の流域とその支流が入り込み、流域に市街地・ 集落・農地が点在し、まさに典型的な中山間地域である。

津和野町には、これまでに多くの遺跡等が確認され発掘調査等を実施している。そして、いまのところ後期旧石器時代にまで遡る。旧石器は町内で唯一ナイフ形石器が喜時雨遺跡から出土している。 高田遺跡、山崎遺跡からは押型文土器が出土している。また高田遺跡からは中期の阿高式、後期中頃



第1図 位置図

の鐘崎式土器がまとまって発見され、対岸の大蔭遺跡からは後期後半の西平式土器が 採集されるなど、当時この地域が九州地方の情報の及ぶ範囲であったことが窺える。

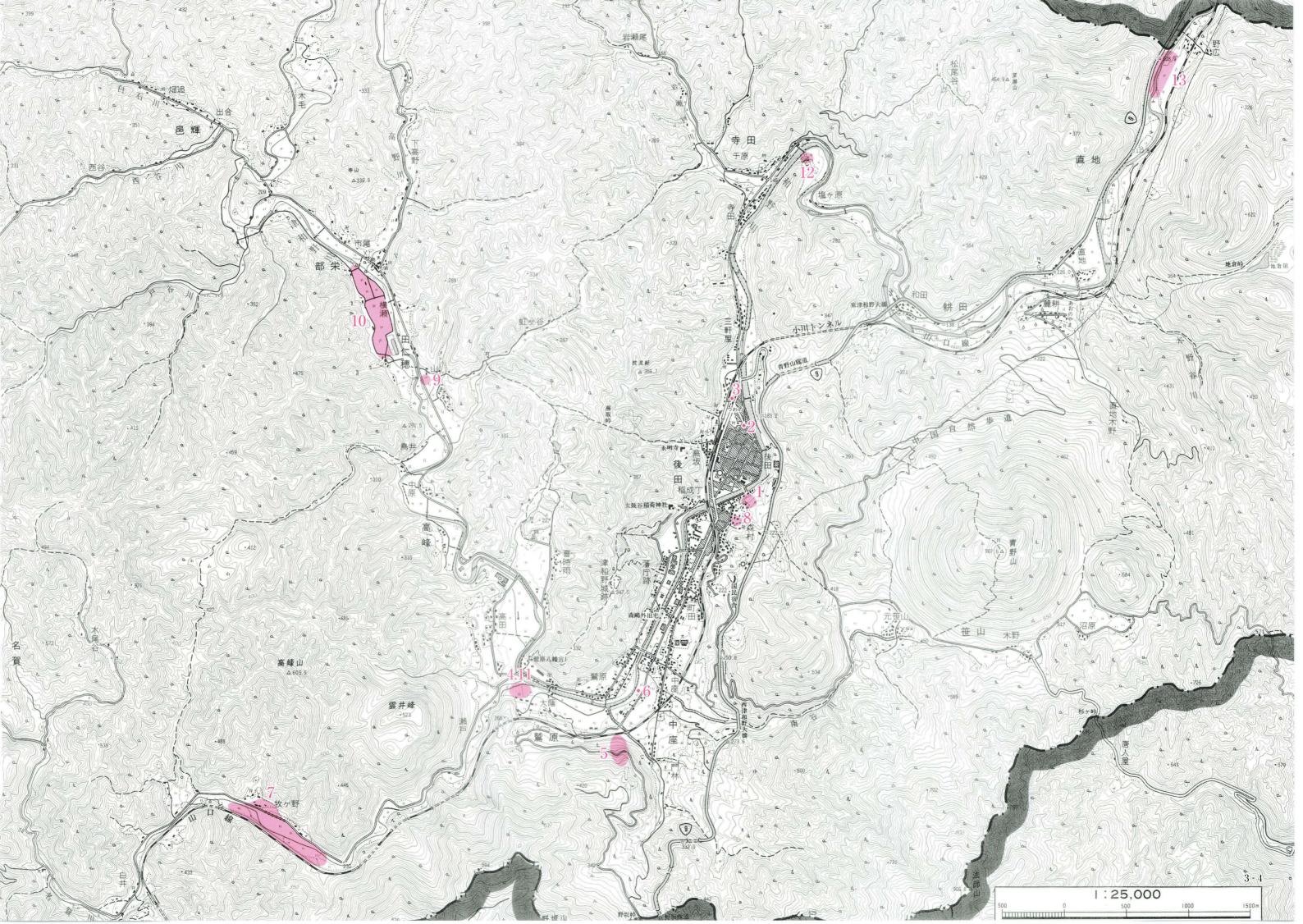
弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての集落が高田遺跡で確認され、在地の土器群に混じって吉備地方から運ばれてきた外来の土器が発見されている。

町内の古墳は、津和野川最上流の木部地区において鍛冶原古墳群が確認されているのみである。

高田遺跡からは奈良・平安時代の緑釉陶器・皇朝十二銭の1つ承和昌寶(836年初鋳)・大量の土師器・ 須恵器が発見されており、当時石見国鹿足郡能濃郷(元美濃郡鹿足郷)と呼ばれていたこの地域の重要な拠点が高田地区にあったものと思われる。

中世津和野の領主吉見氏は、弘安 5 (1282) 年に元寇再防備のため能登国から津和野北部の木部地区に入り、その後14C代に津和野城を構えたと伝えられている。文献では吉見氏入部以前の記録はほとんど残されていないが、これまでの高田遺跡の発掘調査では12・13C代の白磁が大量に出土しており、吉見氏入部以前に津和野地方に有力者が存在していたことが考古学的証拠によって明らかになりつつある。中世の津和野城の大手口は近世以降の大手口とは反対側の喜時雨にあったと伝えられ、吉見氏の居館も同時に存在していたとするのが通説である。

関ヶ原の役後、吉見氏は毛利氏に伴い萩に移るが、その後坂崎出羽守の16年間の治領となり、津和野城の大改築・城下町整備など、現在の町並みの基礎となる大事業が行われた。その後、亀井氏11代225年間の治世を経て明治維新を迎えることとなる。



第2章 平成9年度(1997) 調査概要

第1節 丸山地区

①住所 津和野町森村

②調査原因 TP1~5 小規模土地改良事業

TP6~8 町道改良工事

③調査内容 試掘8ケ

④調査結果 遺跡の存在を確認した。

⑤遺跡の時代と種類 弥生時代の集落跡

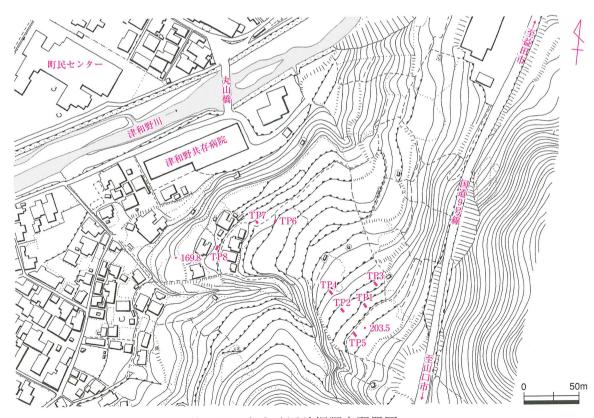
⑥主な発見遺構 柱穴1穴

⑦主な出土物と概数 弥生土器ビニール1袋

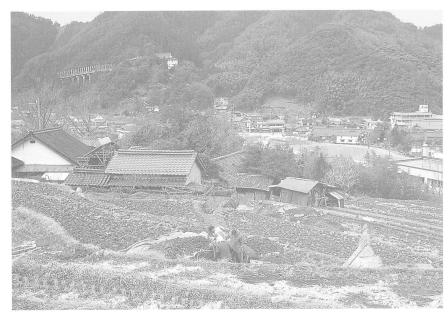
⑧調査所見 南東部に5ケ所、北西部に3ケ所の試掘坑を設定した。

南東部では遺物の流出は見られたものの、遺跡の範囲外と判断された。 北西部ではTP7で弥生時代後期あたりの包含層と柱穴が確認できた。

遺跡は、TP7周辺から未調査地に広がるものと考えられる。



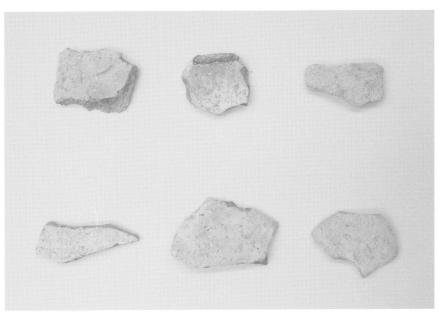
第3図 丸山地区試掘調査配置図



1. TP6・7付近遠景(東より)



2. TP7弥生時代の柱穴 (東より)



3. 出土遺物

第2節 祇園町地区

津和野町後田 ①住所

津和野郵便局庁舎新築工事 ②調査原因

試掘2ケ ③調査内容

④調査結果 遺跡の遺存を確認した。

⑤遺跡の時代と種類 江戸時代の町屋跡

⑥主な発見遺構 礎石、集石遺構、土坑、埋め桶遺構、柱穴

⑦主な出土品と概数 陶磁器コンテナ2箱、鉄製品ビニール1袋、

銅製品ビニール1袋、食物残滓ビニール1袋

2ヶ所の試掘坑を設定した。江戸時代町屋の大火の跡と考えられる焼土層が ⑧調査所見

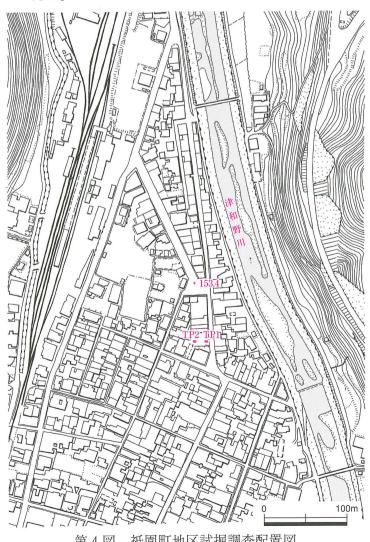
重層的に遺存していることを確認。

TP1では焼土層を6層、廃棄土坑、貼り床などを確認。

TP2では焼土層の堆積は少なかったが、最下層付近より便槽の可能性のあ

る埋め桶遺構を確認した。

今後、焼土層を基準にして江戸時代の生活面を層位的に把握できるものと考 える。



第4回 祇園町地区試掘調査配置図



1. 調査区近景(西より)



2. TP1発掘状況



3. 出土遺物

第3節 後田土井ノ内地区

①住所

津和野町後田

②調査原因

津和野郵便局仮庁舎工事

③調査内容

試掘1ケ

④調査結果

遺跡の存在は確認できなかった。

⑤遺跡の時代と種類 なし

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土品と概数 なし

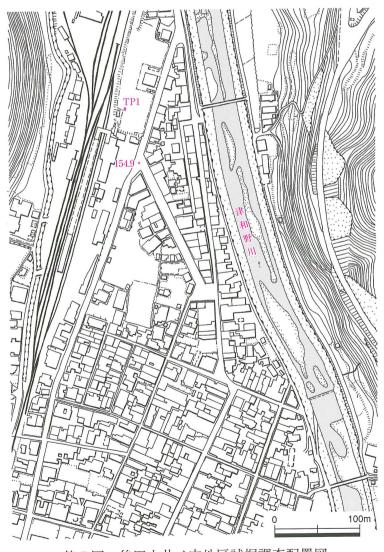
⑧調査所見

1 ケ所の試掘坑を設定したが、近代の大規模な撹乱(鉄道官舎)を受けてお

り、遺跡の存在は確認できなかった。

ただし、字名から中世武士団の館跡が周辺に存在している可能性は十分考え

られ、今後とも注意が必要である。



第5図 後田土井ノ内地区試掘調査配置図



1. 調査区遠景(東より)



2. 完掘状況 (南東より)



3. 完掘状況(北西より)

第4節 大蔭地区

①住所 津和野町鷲原

②調査原因 県道整備事業

③調査内容 試掘9ケ

④調査結果 遺構の存在を確認した。

⑤遺跡の時代と種類 縄文時代の集落跡

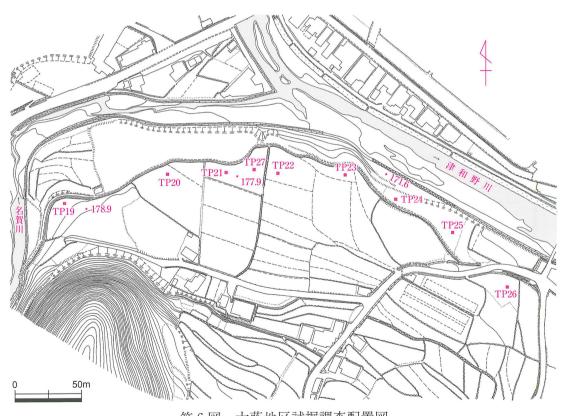
⑥主な発見遺構 土坑、柱穴

⑦主な出土品と概数 縄文土器ビニール1袋、石製品ビニール1袋

⑧調査所見 9ケ所の試掘坑を設定した。遺跡は河岸段丘縁辺のうち西半に広がっており、

東半では遺跡の範囲外であることが判明。

TP20・21・27で、縄文時代の遺物包含層と土坑、柱穴が確認された。なお、少量ではあるが平安期以降中世にかけての貿易陶磁器などの遺物も発見されており、戦国期の古文書に見られる「三谷名」との関連から注意が必要である。



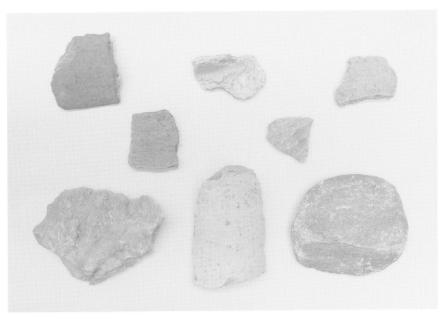
第6図 大蔭地区試掘調査配置図



1.調査区遠景(北西より)



2. TP27縄文時代の土坑(南より)



3. 出土遺物